



No11. 2026. 1. 30

我が家の娘（6歳）は、夢が色々あり日々変わっているようです。「ダンスするひと」「アイスやさん」「アイドル」etc…。うんうん、いいね。やりたいことが沢山あるって…と思いながら聞いています。

自分の夢を振り返ると…小学生の時は、友だちと順番に漫画を描く“交換漫画”が楽しくて、漫画家になりたかったこと。中学生の時は、看護師さんに憧れていたこと…。高校生になり、それまでどちらかといえば子どもは苦手だったけれど、ボランティアで保育園に行ったことがきっかけで、保育士になりたいという夢が見つかりました。具体的な理由があるわけではなく、子どもと一緒に過ごすうちに、「あれ？何だか、すごく楽しいかも…。保育士やりたい！」と、自分でも予想外の気持が沸き上がってきたのです。保育士のことを調べていく内に、養護施設のことを知り、家庭で暮らせない子どもたちの支援をしたいと思い施設に就職しました。保育士になり養護施設で働くという夢は叶ったけど、自分自身が子どもと関わる大人としてまだまだ未熟で、十分にやりきれなかったという思いが残っています。

結婚して長野に移住し、子どもと関わる仕事を続けたいと思い、公立の保育園で数年間働いていました。行事やカリキュラムが多く、子どもの思いや主体性よりもやらなければならぬことをさせる風潮に、保育が楽しいと思えませんでした。そんな時ピッピのことを知り、「森のようちえんて、どんなところ？」「一日中、外で過ごすってどんな感じなんだろう？」

当時、1歳だった娘とくるみの日に参加しました。雪で白く染まり、「うさぎ野原のクリスマス」の歌声が響いていた12月のピッピの森。言葉で、上手く表現出来ないのですが…ピッピの森の心地よさ、自分が開放される感覚…もっとピッピのことを知りたい！という思いに突き動かされ、帰る間際「ピッピで、働かせて下さい！」と、まゆさんに伝えていました。

ピッピで、スタッフとして過ごす今。自分の直感を信じ、勇気を出して一步を踏み出すことができ、本当によかったと感じています。受け入れて頂いたまゆさん、スタッフの皆様にとても感謝をしています。

ちいさかった子どもたちがピッピの森で、たくさん泣いて、笑って、気持を表現して受けとめてもらって、友だちともめごともたくさんして、話し合って…その子らしく、どんどん逞しく成長していく姿を見守り、一緒に過ごせることが、とても楽しく幸せです。

これから子どもたちが、どんなふうに大きくなって、どんな夢を持つのだろう…と考えるとわくわくします。どの子も自分らしく、やりたいことや好きなことが見つかるといいな。ピッピで育った子どもたちは、色々なことがあっても、きっと大丈夫。そんな風に思えるのです。

これからも、自分の中で色々な夢を育てながら、楽しんでいきたいと思います。

：小井土 恵（マッキー）

庭の恵みを食べよう遊ぼう楽しもう2月

お正月にかかるせない「マツ」。冬でも美しい緑の姿をたたえ、古くから神様の降り立つ木として、人々の暮らしを支えてきました。2本1組の葉をもつマツを二葉松、5本の葉をもつ五葉松などがあります。^{*} そして、マツといえば『松ぼっくり』という『球果』が特徴ですね。今回はその松ぼっくりを使って、お庭で楽しい、おいしい燻製Timeをすこしてみませんか？ すぐにできるので、ぜひ。



松ぼっくりは油分(松脂)を多く含むので
短時間で強力な煙がでます。

(薪ストーブの焚き付けにもオススメ♪)

松由来の爽やかでスパイシーな香りがっきます。

レモン、塩、オリーブオイルなどの調味料もおすすめ♪

* このあたりに生えるマツは主にアカマツで、中間のカラマツもあります(球果が少し大きい)。海の近くには枝ぶりやマツがさの大きい葉の団のクロマツが生える。

